

# 第173回 エンドオブライフケア研究会 特別講演のご案内

テーマ：Quality of Death ～ がん哲学 エッセンス～

講師：樋野興夫 先生（新渡戸稲造記念センター長、順天堂大学名誉教授）

日時：2019年5月15日(水) 18:00～19:30

会場：千葉大学医学部附属病院 3階 ガーネットホール

会費：無料（申込不要）

## 樋野先生からのメッセージ

昨年末、新刊『楕円形のころも～ がん哲学エッセンス～』（春秋社）が出版される、運びとなった。丁度、「がん哲学外来」10周年記念でもあった。『真理は円形にらず、楕円形である。——患難の坩堝（るつぼ）の内に燃え尽くす火に鍛えられて初めて実得し得るものである。』（内村鑑三）

すべての始まりは「人材」である。行動への意識の根源と原動力をもち、「走るべき行程」と「見据える勇気」、そして、「最も必要なことは、常に志を忘れないよう心にかけて記憶することである」（新渡戸稲造）。「責務を希望の後に廻さない、愛の生みたる不屈の気性」が、「人生の扇の要」の如く甦る。『生活環境や言葉が違って心も通えば友達であり、心が通じ合う人と出会うことが人間の一番の楽しみである。』（新渡戸稲造）を体験する日々でもある。『面の忿（いかり）をたち、心の瞋（いかり）をやめて人のたがはんを瞋（いかる）ことなかれ、人みな各心に執する事あり。我が是は人の非。人の是は我が非、我もかならず聖にらず。彼もかならずしも凡にらず、共にこれ凡夫なり。是非の理たれか 是れを定めん。』（新渡戸稲造『一日一言』二月五日付）。

勝海舟の屋敷があった赤坂で、講演『勝海舟の胆力～ がん哲学外来の心得～』する機会が与えられた。母を亡くして悩んでいるクララに対して、勝海舟の奥さん（たみ）の言葉『悲しい時には私達の所へいらっしゃい、一緒に泣きましょう、そしてあなたが仕合せな時には一緒に笑いましょう。さあ勇気をお出しなさい、——これから先の長い年月のことは考えず、今日という日以外には日がないと思ってただ毎日をお過ごしなさい』は、まさに、「訪れる人を温かく迎い入れる」見本である。

『「Quality of Death」～ がん哲学エッセンス～』の3ヶ条は、「これで良い・これでお終い・もう逝きます」である。

## エンドオブライフケア研究会世話人

千葉大学大学院看護学研究科	増島麻里子（世話人代表）
千葉県がんセンター	藤里 正視 大坂 美穂
千葉市立海浜病院	塩原 正之 久保ひろみ
千葉市立青葉病院	西脇 哲二 樋口久美子
千葉メディカルセンター	岩崎好太郎 石井 邦子
千葉大学医学部附属病院	田口奈津子 箭内 博子
東京通信大学	佐藤 禮子（世話人顧問）

連絡先 エンドオブライフケア研究会 事務局（渡邊）  
E-mail: miwa.watanabe@tohto.ac.jp

